

余目第三学区地域行動計画

人が集い
笑顔かがやく
菁莪のまち

～笑・和・輪で未来へつなごう～

令和6年3月

菁莪のまちづくり運営協議会

目 次

明るい地域づくりのために

1. 地域の概要	1
2. 第三学区の現状と課題	1
3. 地区計画の基本的な考え方と位置	2
4. 地域ビジョン(将来像・基本目標・テーマ)	3
5. 具体的な行動と年次計画	4
6. ビジョン策定委員会委員名簿	6
参考資料	7

地域ビジョン策定の歩み



※菁莪とは、詩経に「人材を長育することを楽しむ」意を述べた一説があり、菁莪を育英の義としたものと考えられる。

明るい地域づくりのために

庄内町第三学区の皆様には、菁莪のまちづくり運営協議会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第三学区は日本有数の穀倉地帯として知られる庄内平野のほぼ中心に位置し、社会科の教科書にも日本農業の最先進地帯と今日まで紹介されています。



さて、全国的に加速する人口減少と超高齢化社会の進行、地域福祉の問題、地域コミュニティの連帯意識の問題、産業形態の変化等が顕著になってきました。私たちは、この地域に住み続けるため、次代につなげるために地域にとって必要なものを見極め、誰のための地域づくりなのかを地域の方々の内発性、多様性、独自性、改革性などを尊重し自ら解決に取り組む環境づくりを進めて行きます。

こうした中、地域の羅針盤・地区計画を作成すべく庄内町のまちづくり住民アンケート調査結果をもとに、地区訪問による住民ニーズの把握に努め、令和3年10月には第三学区地域運営組織「菁莪のまちづくり運営協議会」が発足。令和4年9月には「菁莪のまちづくりビジョン策定委員会」を立ち上げ、何回かの話し合いを持ちました。その結果、第三学区の道しるべとして、将来像は「人が集い笑顔かがやく菁莪のまち」基本目標は「次世代につなぐ菁莪の宝」地域づくりのテーマは「笑・和・輪で未来へつなごう」を掲げ、それを実現するために具体的事業の策定に取り組んでまいります。地域活動は人と人との支え合いが拠りどころと考えます。

そのためには、皆様が地域づくりの指針となる地区計画に参画し、地域活動の経営者の一人として、それぞれの立場でどのように関わられるのか、どのように連携できるか、率先して行動することが大切だと思います。

将来の「人が集い笑顔かがやく菁莪のまち」にするために、菁莪のまちづくり運営協議会にお力添えを是非ともお願い申し上げます。

**菁莪のまちづくり運営協議会
会長 佐藤 徳雄**

1. 地域の概要

余目第三学区は、庄内町の北東に位置し、地域の東側を最上川が流れ12集落からなる人口約3,500人、世帯数約1,300戸の美田が広がる地域です。毎年1月には、全国的にも知られた奇祭「ややまつり」が有名です。近年、少子高齢化や人口減少が進行し、地域においても一人暮らし家庭が多く顕在化し、安全・安心な高齢者福祉や見守りが喫緊の課題となっています。第三学区においては、菁莪の精神や余目第三公民館の絆づくりを引き継ぎ、学び合い、譲り合う豊かでやさしいまちづくりを行っていくために、住民主体の地域づくりの拠点として、住民自ら課題を見つけ、住民自ら取り組む活動を行い、住民のためのまちづくりを推進します。



2. 第三学区の現状と課題

診断区分	診断内容
集落調査から見える課題	<ul style="list-style-type: none">都市部と農村部の人口の開きが顕著であり、この差は今後さらに開いていくことが懸念される。50世帯を下回っている地区が多く、今後自治機能の低下が見込まれる。仲町・御殿町地区以外の集落では高齢化率が30%を上回っており高齢者支援の担い手が不足している。0~14歳の大半が仲町・御殿町・廿六木地区に集中しており、その他の地区的持続性が懸念される。40歳未満の人口の増加が今後も見込めず、関係人口も含めた視点で議論していく必要がある。
組織診断から見える課題	<ul style="list-style-type: none">総構成員が79人であり、地区の全人口の2.14%にしか満たない。会費を徴収しておらず、法人化もなされていないことから、財務的な持続性に不安がある。地域づくり活動。事業数が17事業と少なく、ニーズに即した必要な活動を十分に行えているのか。評価指標に基づいたスコアが全体的に低く、組織としての底上げが必要である。自治会や地元企業、ボランティア団体等の様々な団体と連携して事業を進めていくに至っていない。
住民アンケートから見える課題	<ul style="list-style-type: none">防災・防犯の重要性は強く感じているものの、満足度は低い。地域の担い手に関するニーズは高い一方で、祭礼や伝統継承等への満足度は高く、ニーズは低い。除雪や道路の維持に関するニーズは比較的強い。転入者や町外での居住経験がある人の割合が比較的高いに対して、地域の魅力発信に関するニーズが少ない。
ワークショップの内容から見える課題	<ul style="list-style-type: none">若者の都市部への流出などによって年々産業の担い手が減少している。独居の高齢者が増加しており、公共交通が不十分なことから行動範囲が限定されてしまっている。地域行事に対して若者が参加せず、コロナ禍による中止も相次いだことで伝承が困難になっている。選べる業種に広がりがなく、小規模の企業が多いことから給料が安い。子供の数が少なく、支えるための親や地域のつながりが十分に構築できない。子供が地域と触れ合う機会が乏しく、将来的に地域を支えていく人材育成へなかなかつながらない。

(余目第三学区コミュニティカルテから)

3. 地区計画の基本的な考え方と位置

ビジョン策定の目的

急激な社会現象の変化や産業の衰退、多様化する価値観、少子高齢化は近年、更にスピードを増し、これらの要因は地域の存続すら危惧されるところあります。

地区では、庄内町の第2次総合計画に基づき、地区の将来像（ビジョン）を描き、安心、安全な地域づくりと住民相互の助け合う心を養い、地区民一人ひとりがコミュニティの一員として地域づくりに参画し、自主・自立の地域力・自治能力の向上を目指すとともに、それを実現するための指針を示すことを目的とします。

計画の位置づけ

この計画（ビジョン）は、余目第三学区における各種計画や施策の中の最上位計画であり、住民と地区全体が目標を共有し、協力・連携、自助・共助による地域づくりを進めていくための基本指針となるものです。



4. 地域ビジョン



自治分野の目標

未来へつなぐ
安心安全な菁莪の地

福祉分野の目標

誰ひとり孤立させない
菁莪のまち

環境衛生分野の目標

住みやすい環境でいき
いきとした地域づくり

教育分野の目標

みんなで学び共に創る
生きがいづくり

5. 具体的な行動と年次計画（令和6年～10年）

△調査・研究 ○試行・検証 ◎実施・継続 ◇修正・見直し

自治分野

未来へつなぐ安心安全な薈養の地

施策の柱と行動領域

◎住民参加の地域内外交流機会の拡充	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
①住民が気軽に参加できる交流機会を多くつくり、地域内外の交流人口を拡充します。 ②若者が活躍できる場の創出と地域の住民それぞれに出番づくりを推進します。	若者と地元の高校生による交流事業の開催	△	○	◎	→	◇
	世代間交流、異業種交流会の開催	△	○	◎	→	◇
◎地域が潤う新しい産業の創造	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
①地域の特産品や多様な資源を活用した新しい産業づくりに挑戦し、住民所得の向上と生きがいづくりに取り組みます。	交流ビジネス・6次化ビジネスの推進	△	→	→	→	◇
	住民の起業支援研修会の開催	△	○	◎	→	◇
	軽トラ市（農産物等）の開催	△	→	○	→	◇
◎安心安全の住みよい地域づくり	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
①住みやすい地域、住み続ける地域を目指し、住民の地域づくりに対する想いをくみ上げ、生活に根差した課題解決に取り組みます。 ②防犯、防災の意識を高め、災害に強い地域をつくります。	自治会長研修会の開催	◎	→	→	→	◇
	防犯・防災研修会の開催	◎	→	○	◎	◇
	防災訓練の実施	△	○	◎	→	◇
	災害歴、危険個所マップの作成	△	→	◎	→	◇

環境衛生分野

住みやすい環境でいきいきとした地域づくり

施策の柱と行動領域

◎美しい生活環境の地域づくり	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
①不法投棄の撲滅に取り組みます。 ②家庭ごみの減量化に取り組みます。 ③3Rの推進と啓発活動に取り組みます。	町内会でのクリーンデーで道路のゴミ拾いによる美化活動の実施	△	◎	→	→	◇
	家庭ごみの減量化を図るためゴミステーションヘポスターを貼り、注意喚起	△	○	◎	→	◇
	3Rを推進するためにフリーマーケットなどイベントの開催	△	○	◎	→	◇
◎自然豊かで潤いのある地域づくり	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
①豊かな自然を守り、地域内の美化や緑化推進活動等、美しい郷土を目指します。 ②地域住民の環境保全の意識を高め、彩り豊かな地域づくりを目指します。	花いっぱい運動や交通島花植えなどで地域美化推進事業を実施	△	◎	→	→	◇
	グリーンカーテンを推進し、省エネ意識の高揚を図る	△	◎	→	→	◇
	環境保全、再生可能エネルギーの研修会の開催	△	○	◎	→	◇
◎健やかでやさしい地域づくり	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
①住民の健康寿命の延伸や介護予防に取り組みます。 ②生活習慣病の予防や食生活の改善など健康増進に取り組みます。	全世代を対象とした健康教室の開催	△	○	◎	→	◇
	料理教室（食生活改善）や出前講座（保健師の講話など）の開催	△	○	◎	→	◇

福祉分野

誰ひとり孤立させない菁莪のまち

施策の柱と行動領域

具体的な取り組み	具体的な事業	R6	R7	R8	R9	R10
◎通りの場、居場所づくりで生きがいづくり	いきいきサロンの開催	◎	→	→	○	◎
①高齢者の居場所を拡充し、仲間づくりを推進し高齢者の孤立化防止に取り組みます。 ②目的をもって参加できる通りの場をつくり、就労や生きがいづくりに取り組みます。	居場所づくり実態把握と拡充	◎	→	△	◎	→
	自由に集い、学びの場（部屋等）の設置	△	→	○	◎	→
	菁莪塾の開催（歴史文化学習）	◎	→	→	→	◇
◎高齢者に寄り添い支え合う生活支援	具体的な事業	R6	R7	R8	R9	R10
①高齢者のニーズをくみ取った助け合いの支援体制を整備します。 ②高齢者を対象とした特殊詐欺対策等、高齢者の防犯意識の高揚、交通安全に努めます。 ③住民のボランティアの育成と活動の出番づくりに努めます。	ハッピーサポート（外出支援）、フレイル教室	◎	→	→	○	◎
	高齢者世帯等除雪支援事業	△	○	◎	→	◇
	体制整備 避難行動要支援者事業	△	→	○	→	◇
	ボランティア養成講座の開催と人材台帳の整備	△	→	○	→	◇
	敬老会の開催	△	→	○	→	◇
◎家庭・学校・地域の連携による子育て	具体的な事業	R6	R7	R8	R9	R10
①CS（コミュニティスクール）と連携し、豊かな人間関係による子育て支援に取り組みます。 ②子どもの遊び場づくりや交流による遊びの工夫に努めます。 ③保護者同士の交流機会をつくり、お互いに相談できる場をつくります。 ④地域ぐるみの子どもの見守り活動を推進します。	放課後子ども教室の開催	◎	→	→	→	◇
	子育てに関する広報活動並びに支援センターとの連携による情報の共有化	△	○	→	◇	◎
	ママ・パパカフェの開設 ベビーヨガ・マッサージ教室の開催	△	○	○	→	◇
	各集落推薦の見守り隊員の増員と活動計画の作成	△	○	→	◇	◎

教育分野

みんなで学び共に創る生きがいづくり

施策の柱と行動領域

具体的な取り組み	具体的な事業	R6	R7	R8	R9	R10
◎みんなが交流できる場をつくる	せいがフェス・せいが夏まつりの開催	◎	→	→	→	◇
①コミュニケーションから学び合う世代間の交流の場を拡充します。 ②少年期から地域との関わりを持ち、互いに成長できる豊かな人間関係を育みます。	平成ひまわり組（少年教室）の開催	△	○	→	→	◇
	グラウンド・ゴルフ大会の開催	◎	→	→	→	◇
	スマホ教室の開催	○	○	→	→	◇
◎元気なこころと体をつくる	具体的な事業	R6	R7	R8	R9	R10
①子どもや高齢者の理想の生活リズムを提案します。 ②住民の体力増進のために一人1スポーツに取り組みます。	理想の生活リズム表の作成と配布	△	○	○	→	◇
	軽スポーツ大会の開催	◎	→	→	→	◇
	朝活の推奨	△	○	○	→	◇
	ニュースポーツ教室の開催	△	○	→	→	◇
◎ともに学べる場をつくる	具体的な事業	R6	R7	R8	R9	R10
①親も子も成長できる共育活動を推進します。 ②地域の歴史や文化を学び、継承する未来の担い手育成に取り組みます。 ③自治会活動や地域づくり活動を担う次世代の人材育成に取り組みます。 ④住民が共に学び合い地域に貢献できる出番づくりを推進します。	親子共育教室（わいわい広場）の開設	◎	→	◇	○	◇
	次代を担うリーダー養成講習会の開催	△	○	○	→	◇
	住民の自己実現や地域づくり研修会の開催	△	○	○	→	◇
	生涯学習講座の開設（パソコン、趣味など）	◎	→	→	→	◇

6. ビジョン策定委員会委員名簿

(青義のまちづくりビジョン策定委員会)

◎委員長 佐藤徳雄 部会長 (○印)

【自治部会】 ○遠田三一

・猪又義則・森屋 孝・眞田昌和・佐藤世紀・池田 理・阿部正雄・金子尚毅

【環境衛生部会】 ○佐藤 研

・日下部忠明・高橋浩二・高橋 満・佐藤 輝・阿部 泉・佐藤晃子・秋庭亮一

【教育部会】 ○佐藤 繁

・齋藤正典・清川 歩・足達晃一・渡會勝紀・志田 拓・佐藤和恵・齋藤里佳

・森屋真理・遠田恭策・小林えり奈

【福祉部会】 ○鈴木修二

・佐藤 彰・樋渡 大・佐藤史音・佐藤 泉・佐藤有里

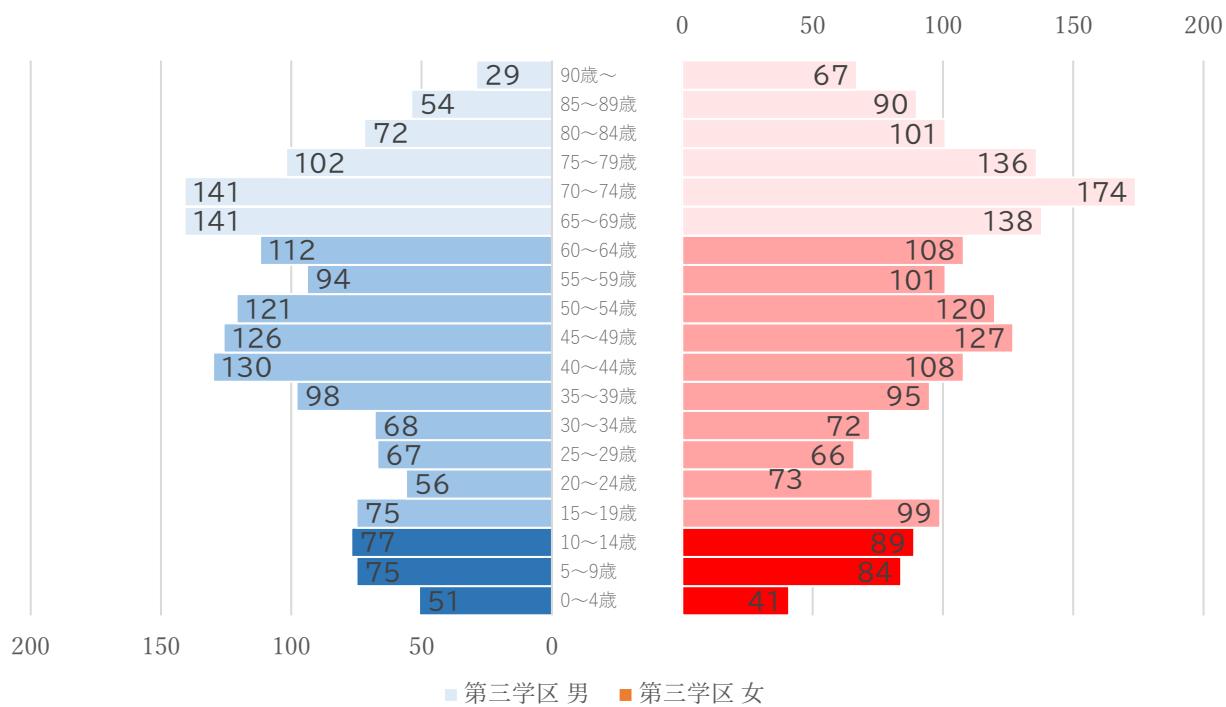
◎アドバイザー：NPO 法人 きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋由和氏



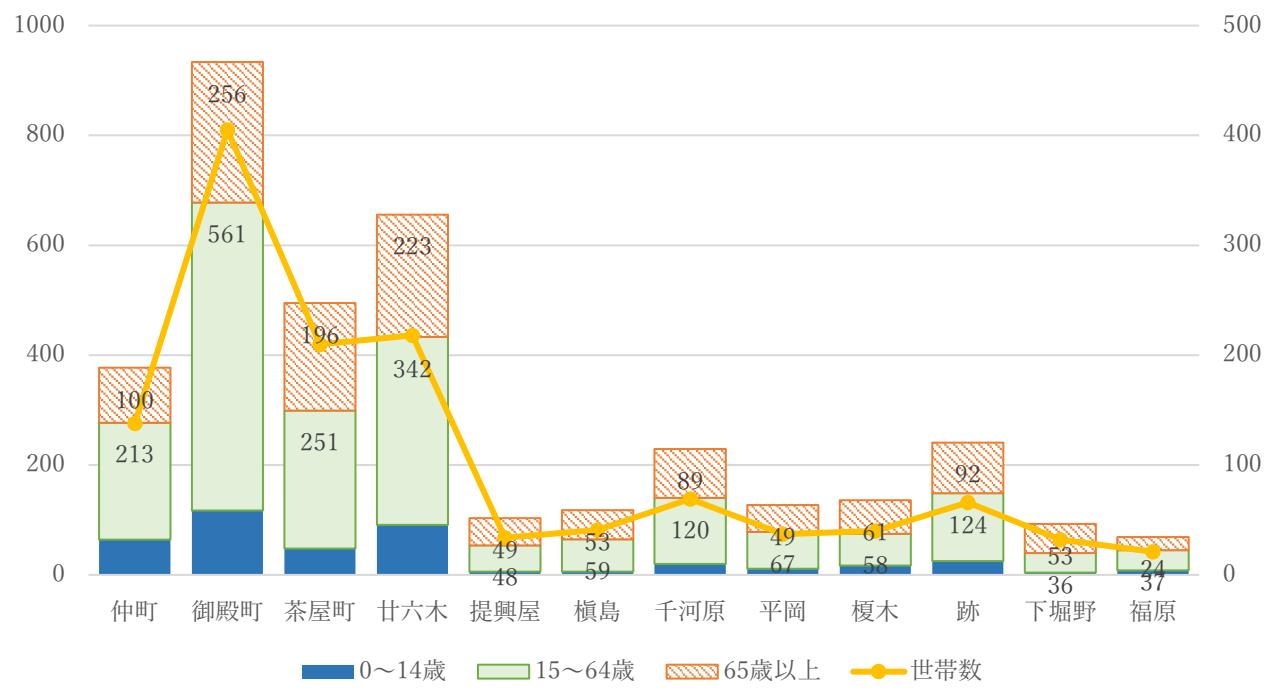
《参考資料》

地域の今と将来が、読み取れます。

R5 余目第三学区年齢別人口数

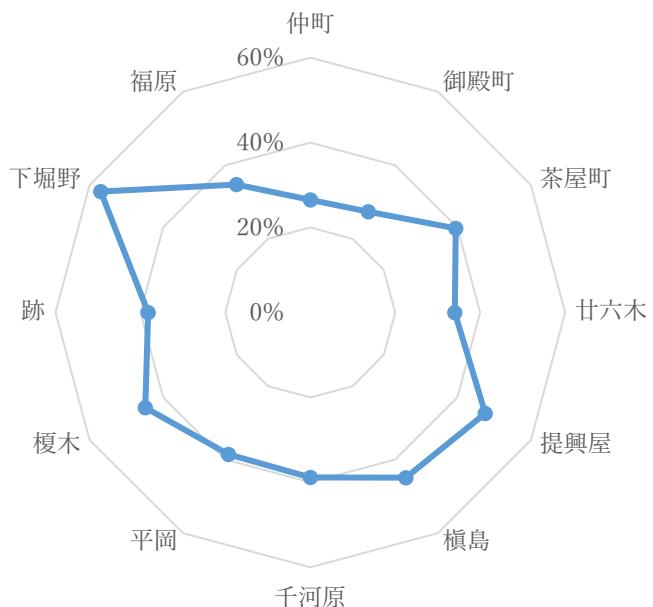


R5 余目第三学区 集落別世帯数・人口

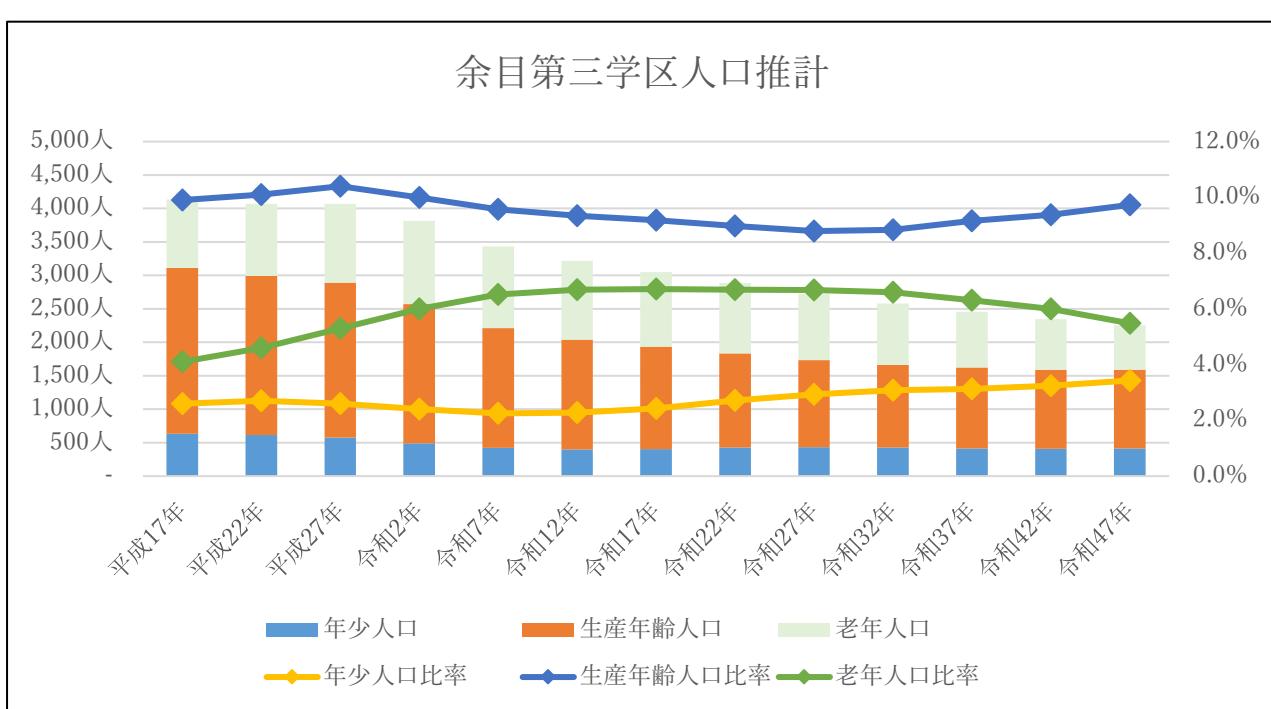


《参考資料》

R5 余目第三学区 集落別高齢化率（平均35%）



余目第三学区人口推計



余目第三学区地域ビジョン策定の歩み

◎令和3年

10月17日 余目第三学区地域運営組織「菁莪のまちづくり運営協議会」設立

◎令和4年

3月27日 菁莪のまちづくり運営協議会総会開催

- ・地域ビジョン及び地区計画策定を決定する

5月16日 まちづくり住民アンケートの実施（～6月30日）

10月 6日 ビジョン策定委員会第1回全体会議開催

- ・菁莪のまちづくりビジョン策定委員会設置要綱承認、全体ワークショップ

10月26日 ビジョン策定委員会第1回作業部会開催

- ・分野別の目標案を設定

11月24日 ビジョン策定委員会第2回全体会議開催

- ・施策の柱(将来像・基本目標・地域づくりのテーマ)についてのワークショップ

12月15日 ビジョン策定委員会第2回作業部会開催

- ・分野別目標と施策の柱（将来像・基本目標・テーマ）の確認と修正

◎令和5年

1月13日 余目第三学区・狩川地区ビジョン策定経過報告会開催

3月12日 令和4年度地域づくり懇談会・策定委員研修会開催

- ・テーマ「地域活動に学ぶ！」2名から話題提供

5月18日 ビジョン策定委員会令和5年度第1回作業部会開催

6月 1日 ビジョン策定委員会令和5年度第1回全体会議開催

- ・将来像・基本目標・テーマの決定

7月 6日 ビジョン策定委員会令和5年度第2回作業部会開催

- ・事業の整理と行動計画（案）の作成

8月31日 ビジョン策定委員会令和5年度第2回全体会議開催

- ・地域づくり計画書の内容報告と決定

この庄内町余目第三学区地域ビジョン行動計画は、菁莪のまちづくりビジョン策定委員会の方々が2年間にわたり、協議・検討を重ね策定したものです。地域の行動計画として推進しましょう。